





文化七年庚午

元日

古くは春を不思議に思ふ

桃水斎
浄永

何の種も皆みつゝ天虫

とやうな牡丹や花の三月よ景子

二

去年と今年とをいふていふていふて

天虫

宿のついでに五千三改 景子

鮭のふもさのついでに五千三改 浄永



景子

出づけりてり山けりし山多ひたり

言ふとわりのらぬむむな川 浄永

三番使又先ハ鼓のむやうり 天虫

歳暮

穢るなわと見えすややれば景子

うしとらよあうも同一事書 天虫

同

酒とさわあまん李白う年乃風呂 浄永

歳旦

春あう見えありぬの鏡るれ 佑之

四年一子と書ひまれ

かけ入のらうとけりてけの先之

あうまやうくもあう一まうら 山ト

ゆるとくもいもあう一あうの春 立声

まよふ人まゆやう年此ま 南枝

新玉やれあうま。和湯及 億可

隣りうとかり孤をともあふぬ 相建

伊日さす新やあう新竹のうけ 湖路

あうまの娘りのまれあ居るも 赤与

後まれ河勢たやまはのまを 権下

門の戸とらくも玉の春うらや 春之

用乃くくくくくくくくくくく 於橋

まはけりて福とあまうまにあ 権下

ま御や芽先はま年れをうらう 相央

年晡

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春典

雨さうらぎをあらけり梅の香
祐之

海棠やはらけも縁の初めさき
初

梅柳そやあそひのまへそ
春之

垣は木の梅もむらやせふ
花鳥

送信中の夕

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之

春の夜はあけをこたり事ごとめ
先之



除睡軒

淑且

曾休

初のまやとて山あり

久しきなり

ひしうららかにて舞ひ初れ也 志柳

辛酉春

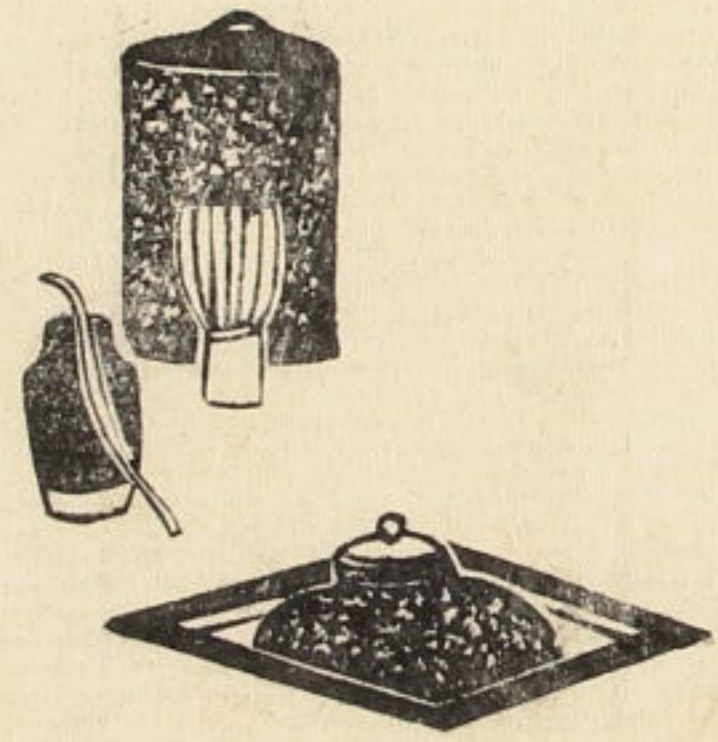
ゆく春とかなるもいと遅かる程 曾休

春の返見たるやしの作うぬ 志柳

新春

松塙亭

異石



千金のまよひ多しなり

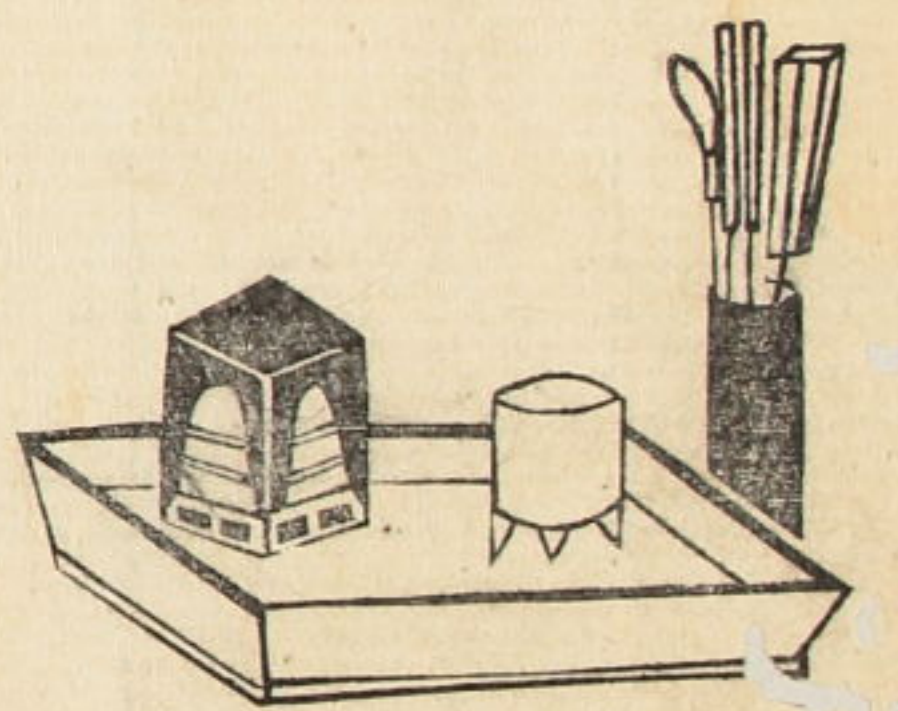
福壽州

歳抄

賑やうな日れ言ふあり

同

大三十日



安雅堂

南軒

年頭

梅も多し草もより去年の

雪れ中

歳末

か〜情やめで国乃

同

う〜川と

正翔

初冬や秋も月も日のも〜

遠若

も風もよもや都々親ふれも

寄若

猿庭

月花は行くは〜の春も

日

あよもこれを見くよ〜

遠若

春鳥

むす春の娘よやあ〜

日

浦人や橋か〜

寄若

うく花もや隣乃梅も二

流水

花の〜

桃天



音陽

何れもやせんあつしきりる 李泊

流年

何れも心乃きあつしきりる 同

春興

何れも人折のしきりる 同



履新

見らるるはあつしきりる 芦滴

除日

何れも心乃きあつしきりる 同

致仙

柑水

蝶よけ味ちりせく梅乃花

柙くしけんおりの風

鞠の意を宗文月の言うけ

あめり鐘れ交り感あり

石中もきこえてもやうのあし

ここの舟ちよつて花をふ

庭跡を流るはるれ川水

くや勃りあふも秋

心申の事たすけふ月あめ

花け火とのれこころい

くやのあしきこえてもやう

くやのあしきこえてもやう

祐之

山ト

潮新

先之

五声

鳥鳥

忘早

馬虫

於橋

後可

南枝

又と志しむをのまよ目まひ

くらくと移りるうあそゆ

今れはなまゝくとさうと

もはくはなまゝくとさうと

ぬりぬりまゝとさうと

あそびまゝとさうと

田と種の中うと新野の藤は

よおそなるとまゝとさうと

せんさうとまゝとさうと

かきけのまゝとさうと

あそびまゝとさうと

あそびまゝとさうと

あそびまゝとさうと

あそびまゝとさうと

相絶

柑水

柑水

魚肥

柑水

香之

祐之

山ト

潮新

先之

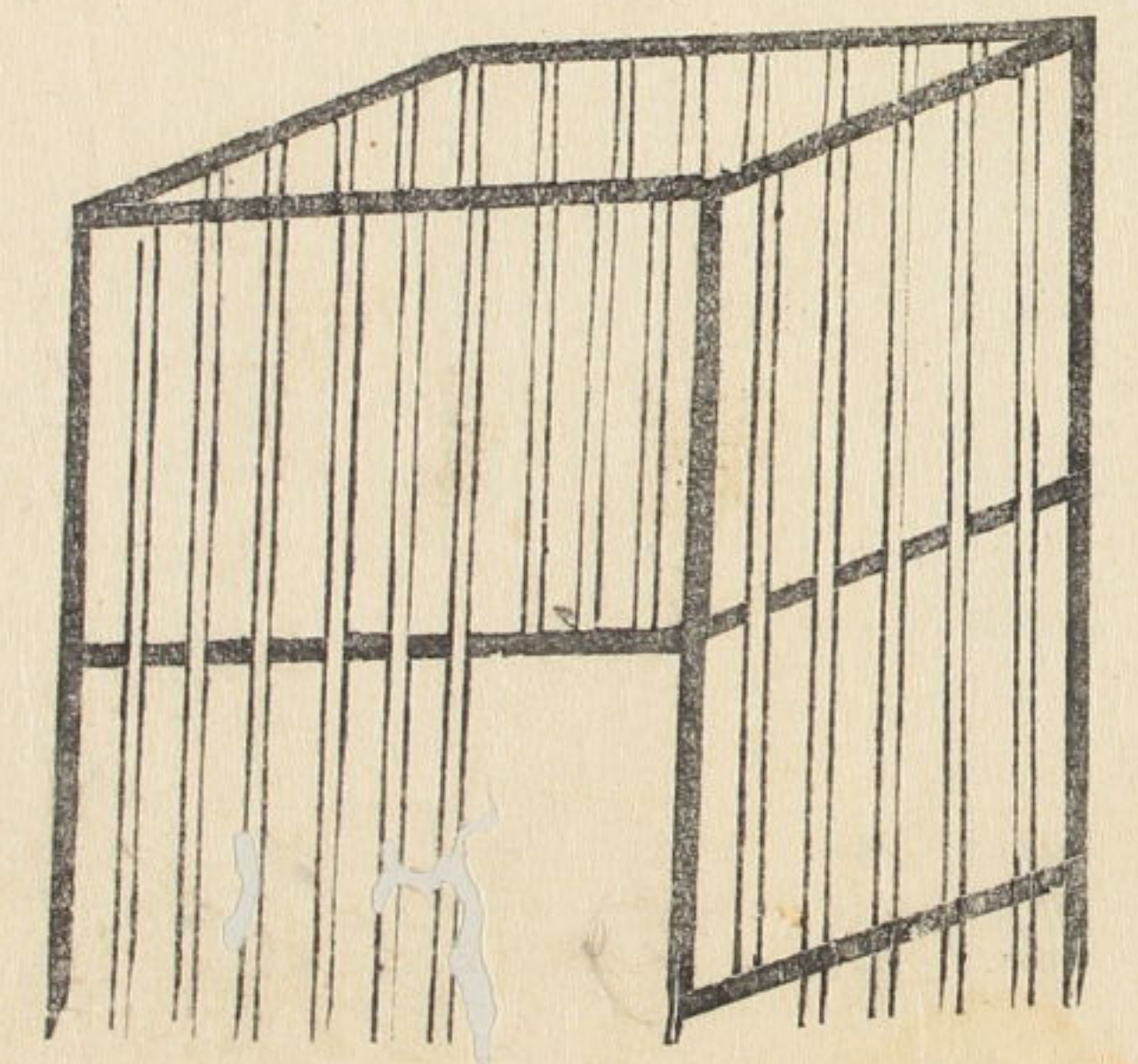
流水

先之

先之

先之

中子の一高正を改修の居 遠若
 今の尼ふも祇王祇女あり 祖央
 海原の海もやふかき雲思く 南枝
 成りかひやまよ長い夏 天中
 何れれ作も笑ひしと宗とて 系子
 かりて半おふりうらや 赤鳥
 いらさるゝの海原のまらほるや 折橋
 とも扇と世回志の常 相傳
 うさゝ又かてく人く去用とを 柑水
 香治ととけぬ先乃松あり 後可
 音逢うとる心く花の隠 五声
 けくくりあも河金屋あり 考者



新且 倉山軒
 蘭洲公

未分考の

十うゝと見えや。

柳うね

歳梢

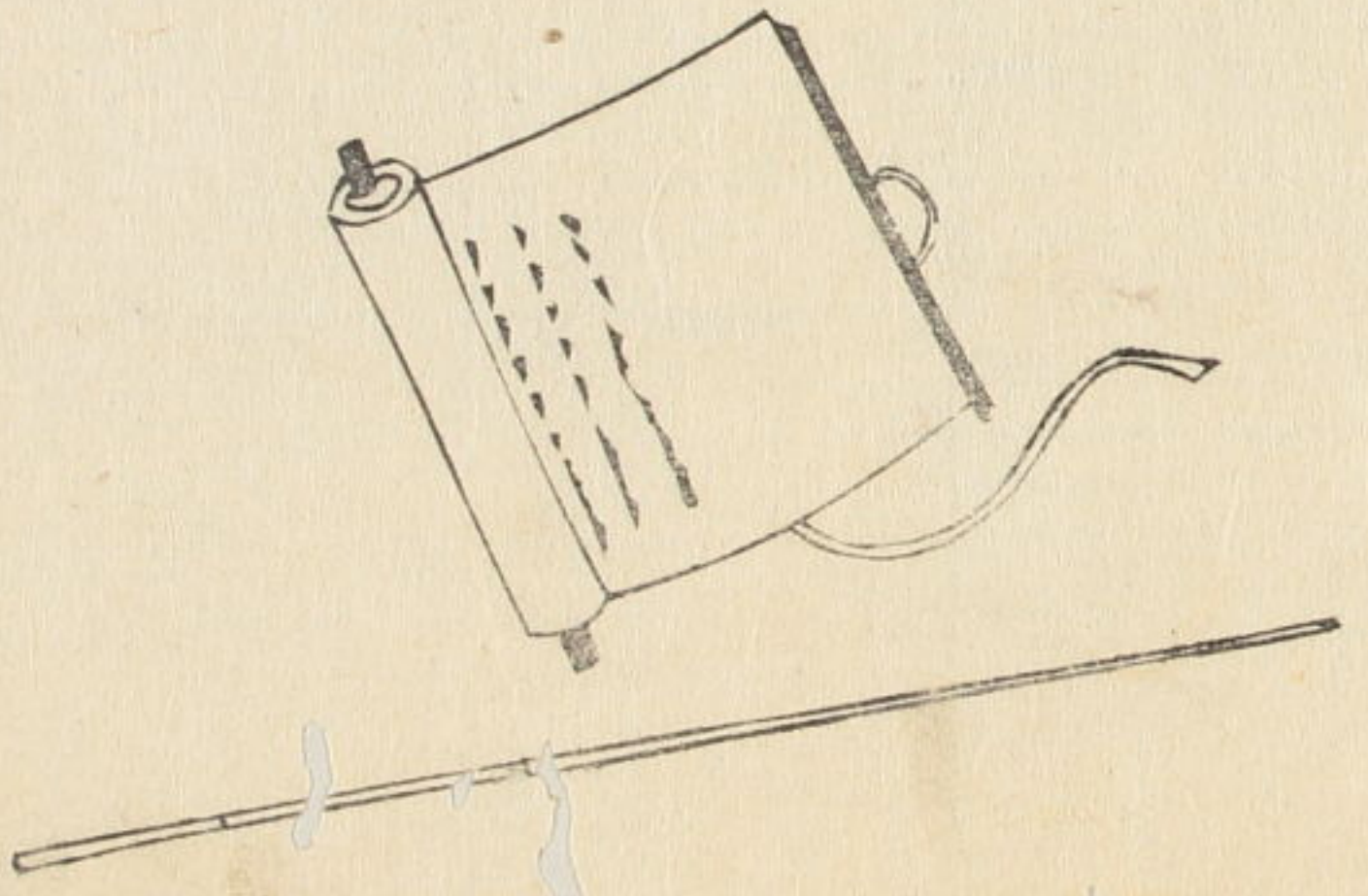
同

之

耳之欲

年

改且



采霞亭

之蘭山公

士賢

之

か

歳夕

同

ふら〜

煉ハるみこ

お〜れまり

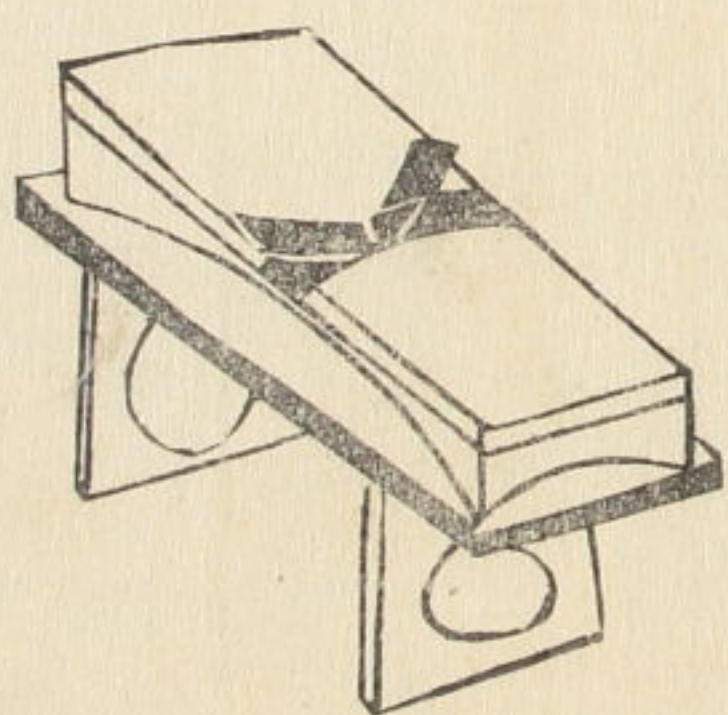
春興

同

花さ〜り

ふ〜〜風の

た〜もろふ



三始

湖西南小松整入

彩重坊

元日や御慶の外ハ各一お玉峰

晩年

ふ〜〜〜〜〜の夜同

春興

ぬ〜〜と勢ふ〜〜同



年且 湖東三川

元日乃あけつち多し福多叶其雄

守歳

かみりし年乃あけつち
多し福多叶其雄

物の手くさあきつちあきつち同

春興

喜此野面あきつちあきつち同

改年

福はふんといふ玉年乃あき 嘯月

隣湖堂

湖東小坂

元日節分を道ハ

日高月

松亭

ふん年ハ先いといふてと 年一声

脛油

あきつちあきつちあきつち同

あきつちあきつちあきつち同

春興

抽てくすまふよそくろ柳風同
空引やとくく人まはりけりぬ 一声

辛始

湖東庵

頼ひてけりけり初多佛 義天

出んとて山低くさるる山 青李

除文

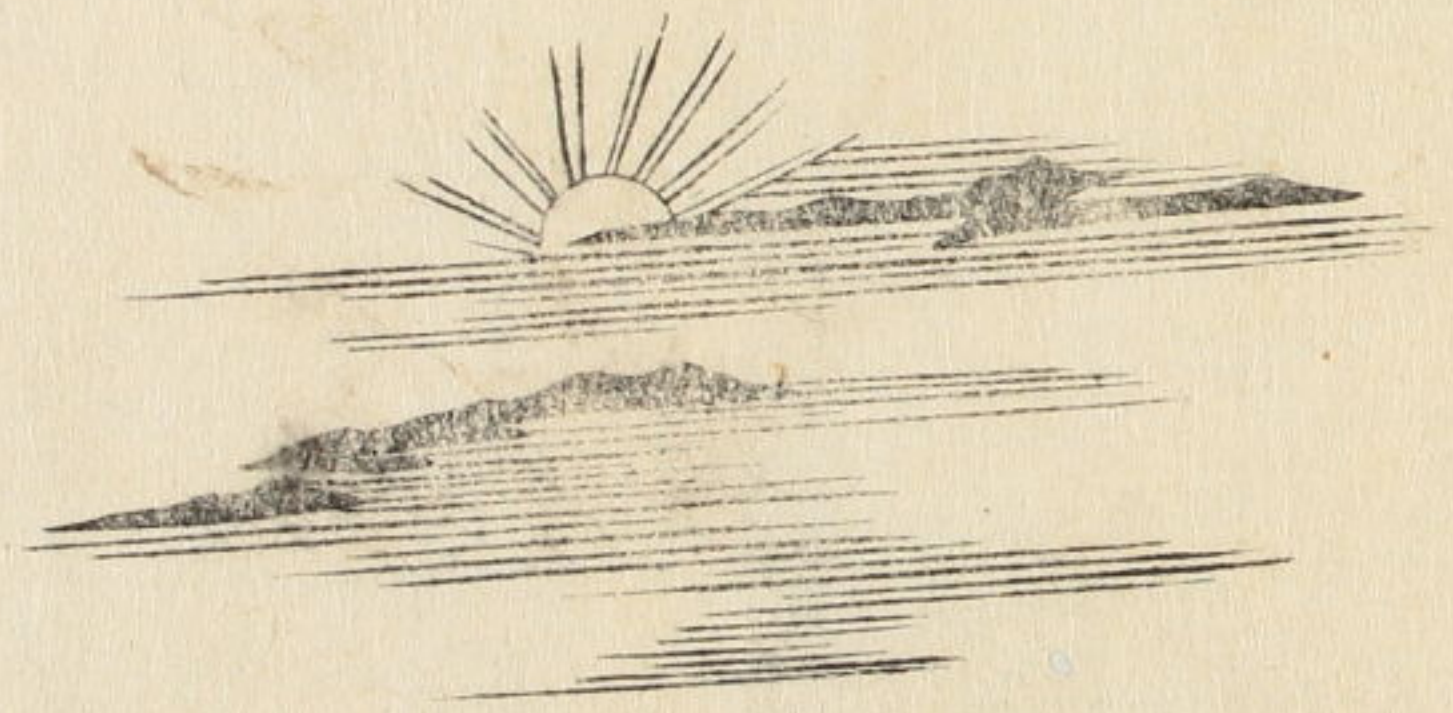
まをりて望人なめりとのさる 同

二月のふゆ果てりぬ 我天

春興

のけりてけりけりけり 同

あつたけりてけりけり 青李



淑節

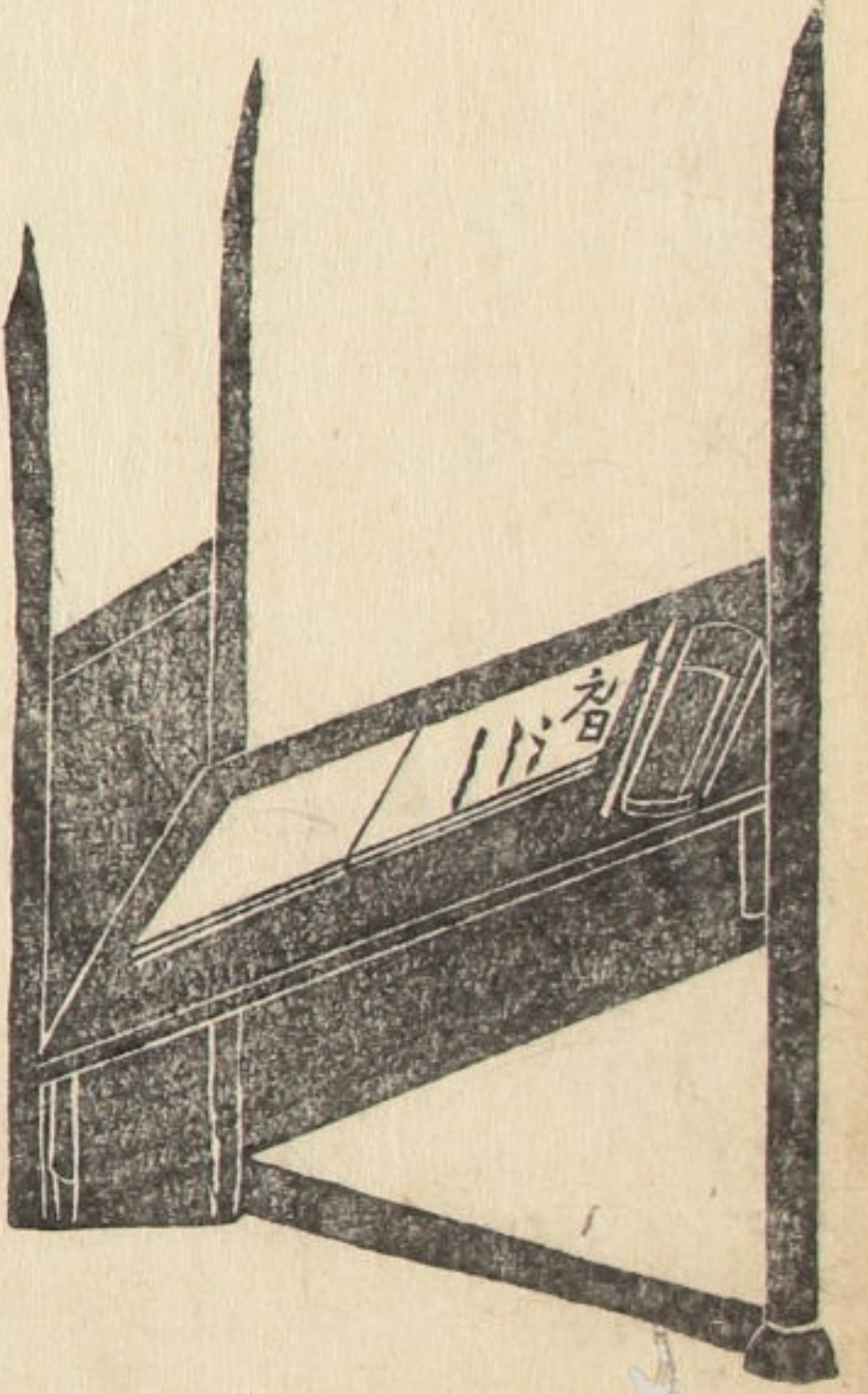
湖西海津

あつたけりてけりけり 蘭城

冬吟

一向専念此所へ

一節の外はなし 同



三朝

湖東長湊

夢中舟

我々の名を乗てあつゝ水邊に 蝶光

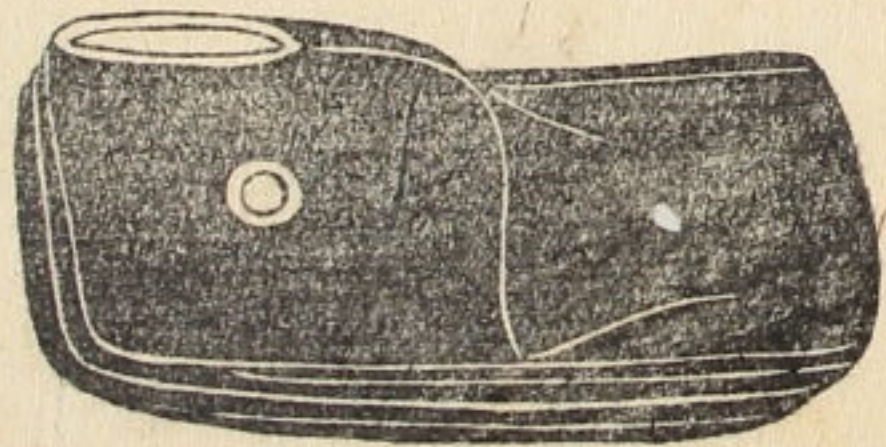
歳季

世に波もよみまらふなり 室船 同

春興

子のよみしつてあそぶ 小松風 同

上日



少くはゆたふたつてあつゝ水邊に
とて免てまはるゝなり
とるまらふとてあそぶなり
えれぬ所をたつてあつゝ水邊に

湖東熊野

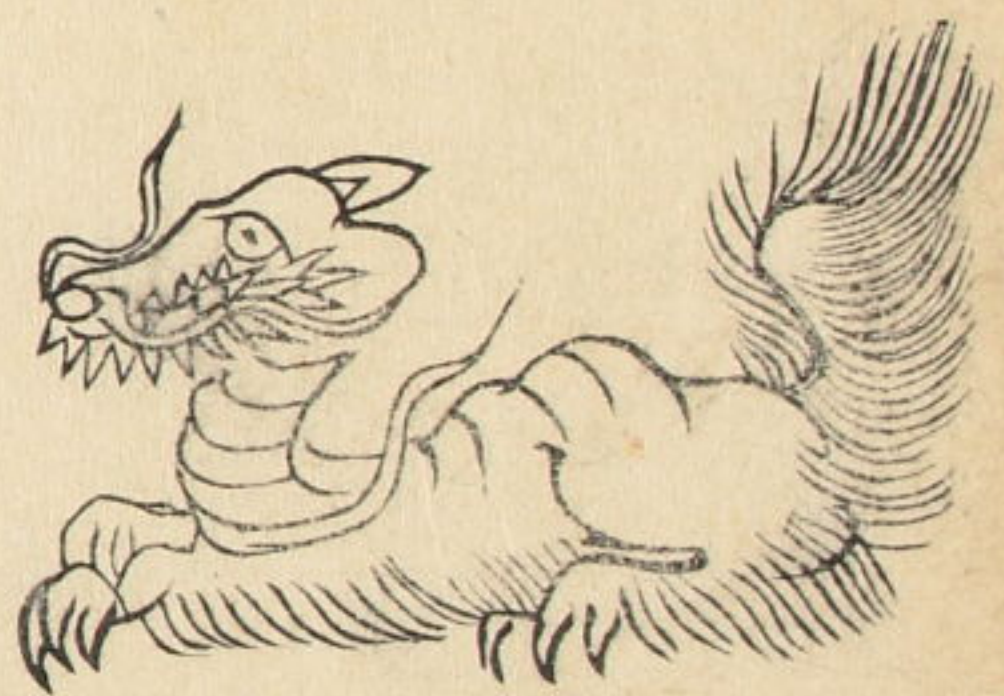
熊岳寺

知足

姉しとつゆまらふなりとつゆまらふの春

佐保姫のよみしつてあつゝ水邊に

あつゝ水邊にあそぶとつゆまらふ



元旦

日新

花川

ちりとりとびとまよふもはのま

とらとらと見えてはのこるる山

樂友

初花のつら雨は笑そあそ

遊之

二

樂友

きのふあまのうらり〜初礼者

梅りきとて宮とてま月

遊之

さくのゆきを身かしてはまはる

花川

三

遊之

あまも門松あり〜さる春

あまうらとわ初節かさる

花川

雅ふれ髪も艶も〜あそふ

樂友

辛梢

まを初や人の心乃歳と〜み遊之

あまは皆新ぬまの〜あそふ

初〜あま若き新よ〜あそふ

花川

あ〜あそふ〜あそふ〜あそふ

あ〜あそふ〜あそふ〜あそふ

知足

改晨

北江州川並

あまの草とらるるまきも手紙云 博英

稚子の心うけりぬもはの妻 杉石

えりや節と扇も 梅れを 栗石

門葉や二葉のま乃まこころ 里秀

年産

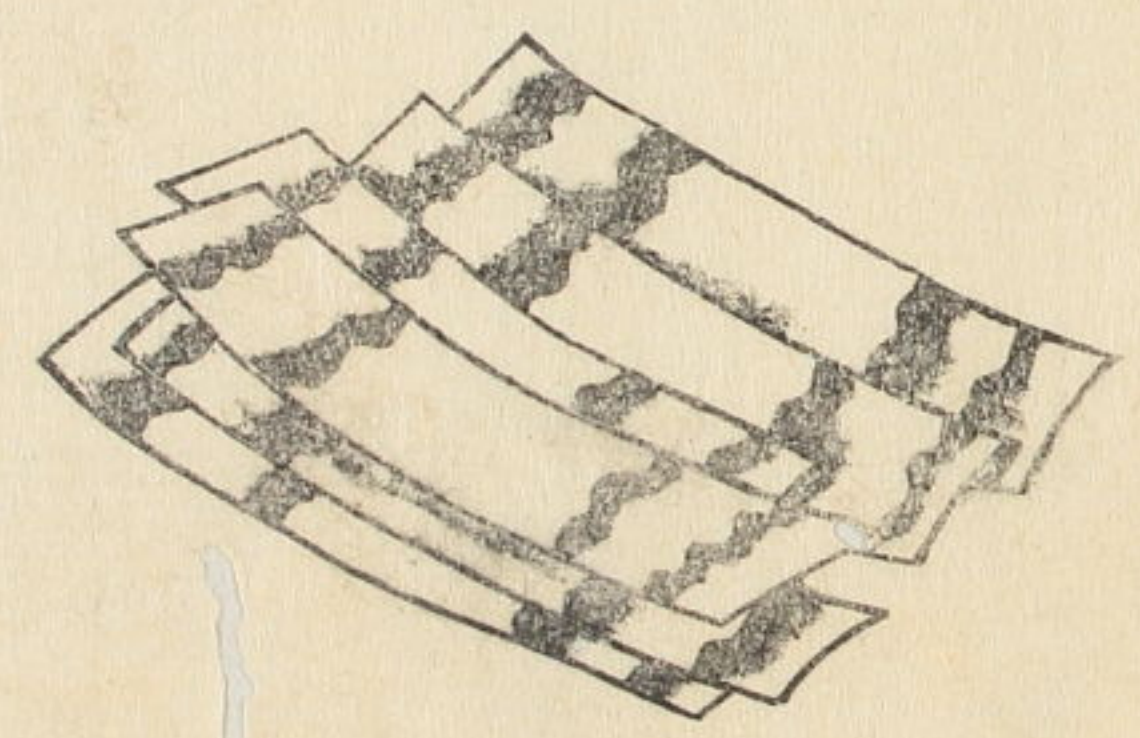
行とやと多と甲州の河原を 同

誰とては後進は我やどの坂 栗石

蝶とては病は清し暮れを 杉石

夢れ世やむとまきと方書り 博英

春無別梅



明かす仕印の字や 毒の花 博英

いく里乃ふんかんくもれ也 杉石

窓あけてまを吹込せ柿の元 栗石

月影のまい夜心らう 毒乃を 里秀

谷まはる白上流やし梅れをか 澁水

連中をすめてまはらひらひら

あまの心かしくとあやし梅れを 博英

鶏明

湖東津里

道三亭



万物の少は初を是名もはれ水 田春

歳晩

在るに

夫ハハ 咄 經 一 年 乃 是 同

春喫

すしとくは初を是名もはれ水 同

改陽

湖東寺金

えりや人を名取の福喜州 慶之

くさ年ハ初を是名もはれ水 龜遊

歳尾

まじり所代ハ初を是名もはれ水 同

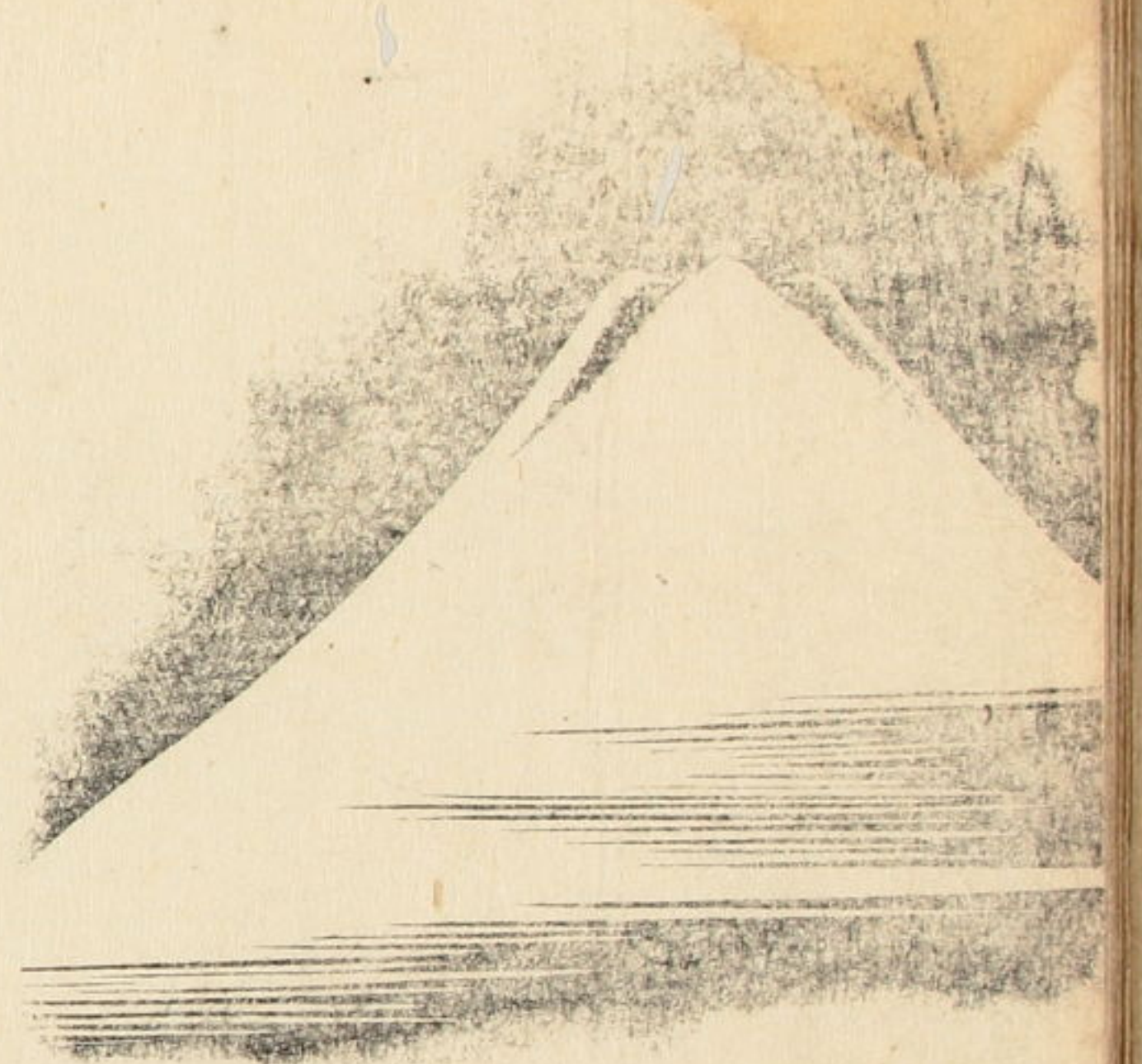
ゆりやま初を是名もはれ水 慶之

春具

まの初を是名もはれ水 同

ふ初を是名もはれ水 二月 龜遊





首春

在東府

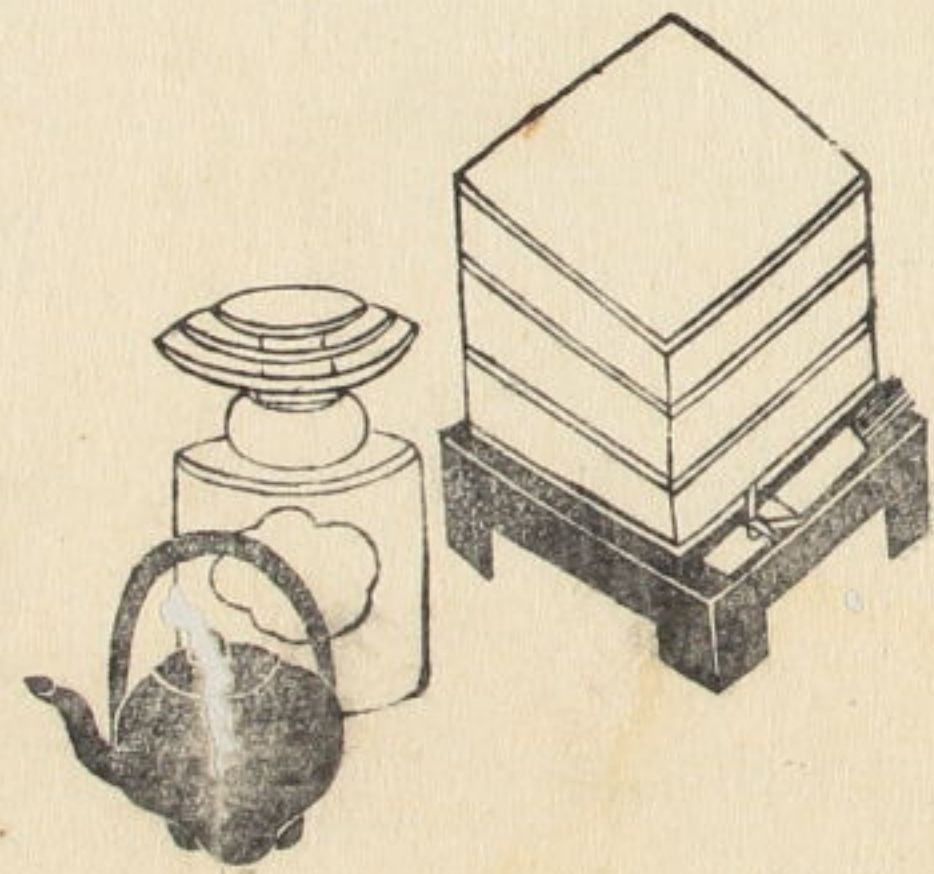
高師

不舎新

まのち見しきやうかみまのちまのち

辛未

浅きやうかみの後のまのちまのち 同



初春

在東府

高師

白雲亭

まのち先禮の禮乃まのちまのち 不遷

辛抄

まのちも都れまのちまのち見分 同



西宮

丹州梅迫

そのうらた

江島

きりぎりすのうらた

年抽

けき中へ推すのうらた

ふらふら指さすうらた

春の魚

春はうらたのうらた

威南

湖東増田



え朝や打てあつらうらた

たのやうらたのうらた

え朝やあ代めしうらた

いはきやあ代めしうらた

金玉亭

宝山

酒楽亭

五月

千代行

鷲雄

蝶籠軒

花笑

古年

まをの心あきこしきまのこ 孟月

うらみらの溜りと流るる川 宝山

うらみらの溜りと流るる川 鶴雄

一とせ病中より

病中より 花笑

春真

しやまの歌の手あしやゆまの 同

しやまの歌の手あしやゆまの 宝山

夏正

円川道

えびやあしやゆまの又望し 冷水

陰夜

一季ははるのよ古曆 同



春真

丹波山家

其況

あまの心あきこしきまのこ

返す心

あまの心あきこしきまのこ

桃水

あまの心あきこしきまのこ

あまの心あきこしきまのこ

